



● 会報第19号の発行によせて ●



今回の特集は、今年10月京都市美術館にて開催の『日本・オーストラリア国際版画展』に向けてオーストラリアの風土や美術大学について武蔵篤彦氏に、今年2月に英国のバンクサイドギャラリーにて開催した『76th Annual Exhibition of The Society of Wood Engravers, U.K. & Kyoto Print Exhibition | 第76回英国木口木版画協会展 & 現代日本の木版画選抜展』について、黒崎彰氏へお話を伺いました。それぞれ大変興味深い内容です。ごゆっくりとお楽しみ下さい。



マーサ マクドナルド ナパルチャリ
Martha MacDonald Napaltjarri
“Untitled”

Paper size – approx. H70×W70cm
Aquatint 2009
Printer – Michael Kempson at Cicada Press

ヨルク シュマイサー
Jörg Schmeisser
“マングローブとノート”

Paper size – H68.5×W78.5cm
Etching
2010

ヨルク・シュマイサー:
Bilder der Reise (『旅行記』),
メルボルン、マクミラン美術出版 p. 158
図版提供: スティーブ・クー



ジャン ディビス
Jan Davis

“ジェミーズ・
ポイントの出来事”

Paper size –
H82×W103cm
Digital print
2011

■特集1 キャンベラの追想 ————— 武蔵 篤彦

■特集2 ロンドンでの「現代日本の木版画選抜展」報告 — 黒崎 彰

英国木口木版画協会の紹介 ————— 齋藤 修

■活動報告

■掲示板



キャンベラの追想



文・写真 武蔵篤彦

今から二〇年ほど前、私はオーストラリアのキャンベラ・スクール・オブ・アートの客員講師として、一年弱滞在しリトグラフの授業を担当しました。シドニーから小型プロペラ機に乗り換えキャンベラに到着しましたが、オーストラリアの首都と言うには不似合いな小さな空港で、いささか当惑したのを覚えています。百年前、オーストラリアの首都をシドニーとメルボルンで争った結果、その二大都市の間地点で妥協し、小高い山と草原しか無かったこの地に計画都市をつくったという話を聞きました。



キャンベラ・スクール・オブ・アートの中庭

この首都キャンベラにあるキャンベラ・スクール・オブ・アートはちょうど私が滞在していたときにオーストラリア国立大学に合併されました。当時オーストラリアの大学の美術学部が三年制であったのに対して唯一四年制カリキュラムを導入していた

美術学校でもあり、かなりレベルの高いプログラムが豊富に用意されていました。なかでもアーティスト・イン・レジデンスは他に類を見ないほど充実しており、私が滞在していた期間中でもアメリカ、イギリス、中国、南アフリカから様々なアーティストが二ヶ月以上の長期にわたり学内の教員宿舎に泊まって各工房で制作を行い、学生たちとの交流を深めていました。アーティストの制作を間近に見ることができ、滞り期間中に制作された作品を大学ギャラリーで展示する手伝いをするなど、美術を学ぶ学生にとってはこの上ない刺激になったことと思います。



キャンベラ・スクール・オブ・アート版画コースの講評会

ニュージーランドもそうですが、オーストラリアは地理的に不利な状況を意識しているのか、他国の文化を非常に積極的に吸収する姿勢があるように感じました。テレビを観ているドラマやバラエティ番組などのほとんどがアメリカやイギリスで制作されたもので、報道番組を除くと自国で制作された番組は一割にも満たないという印象を持ちました。多民族の文化が混在するオーストラリアは、これからの先住民であるアボリジニ文化と共存し、独自のア

イデンティティを築き美術を通して発信をしていく時代を迎えるであろうと考えます。



ヨルク・シュマイサーさんの授業風景

ところで、私がオーストラリアに滞在するきっかけを与えていただいたのは、ヨルク・シュマイサーさんです。ヨルクさんは、私が勤める京都精華大学の版画専攻教授として、一九八九年から九〇年にかけて一年間銅版画をご指導いただきました。学生たちに対して非常に熱心にいるような技法を教えられるご様子は、オーストラリアに戻られてからも変わっていませんでした。キャンベラ・スクール・オブ・アート版画コースの主任教授のお仕事はたいへんお忙しいようですが、決してご自分の制作ベースを崩されることはなく、アトリエを訪ねるたびに新しい銅版画作品の試し刷りが常に入れ替わり、壁に貼られていました。

今回の日本・オーストラリア国際版画展が開催されるに至ったのは、ヨルクさんが両国の版画の架け橋となり、長い年月をかけてその土壌をつくっていただいたおかげだと思っています。

日本・オーストラリア国際版画展 特別展示 - ヨルク・シュマイサーに捧げる -

2014年10月28日(火)~11月9日(日)
京都市美術館



マイケル・シュリッツ
『砂漠の華』/二〇〇九
日本の楮紙に木版画
シートサイズ・六二×九〇センチ

ヨルク・シュマイサー

1942年ポメラニア(現ポーランド)のストルプ生まれ。
78~97年オーストラリア国立大学キャンベラ美術学校の版画とドローイング教室の主任を務め、また京都精華大学芸術学部客員教授(89年)、京都市立芸術大学教授(2002~08年)も歴任した。彼はオーストラリア国内と海外で数多くの個展とグループ展を開催し、その作品はオーストラリア国内外のプライベートとパブリックのコレクションに収蔵されている。ヨルクは2012年にその生涯を閉じた。



『自画像』/エッチング/一九八四
シートサイズ・四四×三九センチ
図版提供・オーストラリア国立美術館

<旅する版画家 ヨルク・シュマイサー追悼展>

会期：2014年10月25日(土)~11月16日(日)
会場：ギャラリー宮脇 〒604-0915 京都市中京区寺町通二条上ル東側
TEL：075-231-2321

ロンドンでの「現代日本の木版画選抜展」報告

黒崎 彰

英国木口木版画協会主催の表記展覧会が二〇一四年二月八日から二十三日までの十六日間、ロンドンのバンクサイドギャラリーで開かれた。

この展示は、私たち実行委員会が二〇一二年に、京都と北九州で開催した「日本・英国国際版画展」へのいわばへお返し展として英国側で企画され、実現したものである。会員諸氏は充分ご承知と思うが、委員会は二〇一一年の「日・中展」以来、それぞれ関係両国において交流展、巡回展を持つことを条件に国際展を実施してきた。しかしながら、国際的な企画がすべて順調に進むとは思われず、その例が「日・米展」であったといえる。二ヶ所の会場がアメリカ側で予定されていたにもかかわらず、ちょうどリーマンショックの不況をともに受け、美術館の日程は以降一年間すべてがキャンセルされた。



展示風景

正彦、黒崎彰、三上景子、田中康、ツツミアスカが選ばれ、合計十名の出品である。作品は紙寸で最大六〇x四〇cmと規定され、ほとんどの作家が旧作を出品、それを私の所に集め、年内にロンドンへ到着するよう余裕を見て十月に速達便で送り出した。



展示風景

展覧会には多大の経費と労力が必要であり、政情や経済動向の如何によつては中止、縮小がやむを得ない場合もある。その意味で、英国での日本版画展が木版画のみの出品数十点に絞り、それでも開催が実現したことは喜ばしいと言わねばならない。その困難な任に当られたR・ソルタ、M・ペッツアル両氏に心から感謝したいと思う。

さて、この両者によって出品作家の選出が京都展にて行われた。木口木版画協会とのジョイント展でもあり、まず小林敬生、斎藤修、二階武宏の木口組が参加、板目組としては藤嶋敬子、平木美鶴、本荘

ところが、いくら待っても到着の通知がなく、問い合わせた京都の国際郵便局からは「荷物は行方不明、現在捜索中」との返答。この混乱の中、R・ソルタ氏から京都を再訪するのでその際作品を持ち帰りたいとの知らせが入った。再び作家たちにご苦勞を願ひ、十二月に作品を手渡すことが無事できたのである。そしてその直後、最初の荷が私の所へ返送されてきた。それには付箋があり、曰く「保管期間が過ぎたので返送します。」とあった。これも国際交流のリスクの一つであろう。郵便事情、ルールの違いその他、国が変わればなんとやら、信じられないことも発生するものだ、この時つくづくと思ひ知らされたのである。

本展覧会開催につきご努力をいただいたR・ソルタ、M・ペッツアル両氏と英国木口木版画協会の作家諸氏、そして二度にわたり作品提供を承諾された十名の出品作家たちへ、この紙面を借りて心より深くお礼申し上げます。

英国木口木版画協会ホームページ
<http://www.woodengravers.co.uk>



オープニングパーティー

協会では英国の伝統的な版画技法である木口木版画を支え、育てることを目的とする組織である。このメディアに興味を持つ人々が集まる団体ではあるが、さらに関連する木版や凸版技法にも強い関心を向けている。基本的に協会は展覧会に参加できる選ばれた作家や招待を受けた作家の約七〇人が協会員を構成している。

以下は、協会のホームページにアップされている紹介文です。元の英文からの翻訳は、図録や通訳等でいつもお世話になっているモニカ・ペーテさんにお願ひしました。(斎藤修)

英国木口木版画協会の紹介

斎藤 修

協会は一九二〇年、フィリップ・ハグリー、ロバート・ギビングス、ルシアン・ピサロ、ゲン・ラヴラットそしてエリック・ギルなどの作家グループによって設立された。彼らは毎年展覧会を開催、デヴィッド・ジョーンズ、ジョーンとポール・ナッシュ、ポール・ゴーギャン、クレア・レイトンなど、注目すべき作家たちの展示も行った。

協会の活動は第二次世界大戦前までは活発だったが、戦時下になると経済的な不況と画材の不足によって、停滞を余儀なくさせられる。戦後、年次展は再び開催されたが、協会の委員メンバーとその文化環境は大きく変貌した。

その後十年間のブランクを経て、八〇年代前半に協会は新しく出発し、国際的にも優れた協会と認められるようになった。協会の主な活動は毎年開催される展覧会とニュースレターの発行である(年六回)。公募から厳しい選択で選ばれた作品とその展覧会は毎年八カ所を巡り、国内と国外から寄せられた質の高い木口木版画を展示している。

木口木版画作家と作品、それらに興味がある英国と世界の人たちが出会う機会、場所を提供している協会は、このユニークな表現活動をサポートし、その技法を将来に守り続けるというまことに重要な役割を果たしているのである。



展示風景

(見開き左頁：写真提供：レベッカ・ソルタ)

活動報告

展覧会名：京都版画 2014 新鋭展

日 時：2014 年 2 月 18 日(火)～3 月 2 日(日)

会 場：ART FORUM JARFO

会場住所：〒605-0023 京都市東山区三条通東大路東入今小路町 81

出 品 者：池之内幹之 木本ありさ 児玉啓子 宿南泉 神野茅生子
田島恵美 中津留友子 日高理恵 松井三和子 望月泉
若狭陽子 (50 音順)

新規会員 11 名が参加した新鋭展は、大作や作品数を多く持ち寄る方もおり、版種も銅版やリトグラフなど様々で見ごたえのあるものとなりました。独学で版画を学んだ方や、知らなかった技法を使った版画など、出品者同士でお話しする機会もあり、その中で多くの事を感じ、学べることができ、今後の制作意欲をかきたてられるよい機会となりました。

(文・写真撮影：松井三和子)

展覧会名：版画集『京都十景』と版画小品展

日 時：2014 年 4 月 1 日(火)～4 月 6 日(日)

会 場：Art Space 東山

会場住所：〒605-0033 京都市東山区三条通神宮道東入夷町 166-16

出 品 者：有年博行 大下百華 川西祐三郎 黒崎彰 小林敬生
近藤幸 齋藤修 坂爪厚生 佐久間嘉明 柴田真由美
清水博文 鈴木良治 田島征彦 田中喜一 田中良平
二階武宏 平木美鶴 武蔵篤彦 山本桂右 (五十音順)

隔年に発行する版画集『京都十景』の第 2～4 集の作品と各作家の小品で構成された展示は、知っている京都と知らない京都が広い空間に一同に並べられ、新しい京都の発見がありました。あと 10 年で 10 集が完成します。21 世紀の「KYOTO100 景」の完成を楽しみにしています。

(文・写真撮影：ツツミアスカ)



掲示板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は会場へお問い合わせください。

●近藤 幸

＜個展 | 近藤 幸 展＞

会期：2014 年 8 月 23 日～8 月 29 日

場所：歩歩琳堂

〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通 1 丁目 10-11
元町エビスビル 3F

TEL：078-321-1154

●富田 伸介、他 3 名

＜グループ展 | 光蔵の会＞

会期：2014 年 8 月 27 日 - 9 月 2 日

場所：松坂屋名古屋店 南館 6 階 美術画廊
〒460-8430 名古屋市中区栄 3-16-1

TEL：052-251-1111

●小野 知美、他 9 名

＜グループ展 | Past Traditions/New Voices in Asian Art＞

会期：2014 年 9 月 2 日～12 月 10 日

場所：The Hofstra University Museum, Emily Lowe Gallery
112 Hofstra University Hempstead, NY 11549, USA

TEL：516-463-5672

●黒崎 彰

＜個展 | 黒崎 彰 新作木版画展「万葉」近江と大和＞

会期：2014 年 9 月 20 日～10 月 12 日

場所：ギャラリー宮脇

〒604-0915 京都市中京区寺町通二条上ル東側

TEL：075-231-2321

●務川 めぐみ

＜個展 | 動物、動物たち考＞

会期：2014 年 9 月 23 日～9 月 28 日

場所：ギャラリー SHIMA

〒662-0036 兵庫県西宮市大井手町 7-15

TEL：0798-70-7000

●川端 千絵

＜個展 | 川端 千絵 木版画展＞

会期：2014 年 10 月 1 日～10 月 15 日

場所：まるこのギャラリー

〒604-8091 京都市中京区下本能寺 492

TEL：075-744-0105

●松井 康子

＜個展 | ペーパースクリーン版画展＞

会期：2014 年 10 月 27 日 - 11 月 2 日

場所：ギャラリー風

〒541-0041 福岡市中央区天神 2-8-136 新天街北通り

TEL：092-711-1510

●児玉 啓子、濱本 澄江、松井 康子、他 1 名

＜グループ展 | 4 つの宙展 II＞

会期：2014 年 10 月 27 日～11 月 2 日

場所：ギャラリー風

〒541-0041 福岡市中央区天神 2-8-136 新天街北通り

TEL：092-711-1510

●濱本 澄江

＜個展 | 濱本 澄江 ペーパースクリーン版画展

- 見えぬものとの対話 ->

会期：2014 年 10 月 28 日～11 月 2 日

場所：GALLERY とわーる

〒810-0001 福岡市天神 2-8-34 住友生命ビル 1F

TEL：092-714-3767

●大下 百華

＜個展 | 大下 百華 木版画展＞

会期：2014 年 11 月 1 日～11 月 15 日

場所：まるこのギャラリー

〒604-8091 京都市中京区下本能寺前町 492

TEL：075-744-0105

●池内 幹之

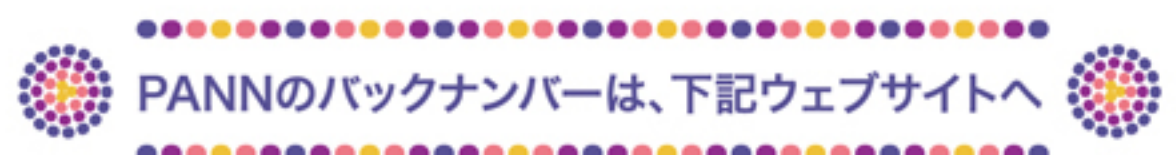
＜個展 | 池内 幹之 銅版画展 - メゾチントの世界 ->

会期：2014 年 11 月 7 日～2015 年 1 月 25 日

場所：喜多美術館

〒633-0002 奈良県桜井市金屋 730 番地

TEL：0744-45-2849



PANNのバックナンバーは、下記ウェブサイトへ

<http://kyotohanganewsletter.jimdo.com>

編集後記

シンガポールの若手作家の作品は、急成長する経済へ警鐘を鳴らす厳しい視線とメッセージがありました。その一方でアニメやマンガに影響を受けた作品や伝統的な水墨画や書の作品もたくさんあり、興味深い旅でした。 会報担当：ツツミアスカ (編集)、三上景子、千明 発行：版画京都展実行委員会 問い合わせ先 (事務局)：075-956-6910 | 2014 年 8 月発行